

教科名	国語		科目名	論理国語		必修		
科別	普通	科学年	2年	コース名	α・選抜・進学	コース	4単位	文系
教科書（発行所）	精選論理国語(明治書院)							
副教材（発行所）	現代文読解標準ドリル(駿台文庫)、天声人語書き写しノート 学習用(朝日新聞出版)、四訂版3ランク方式 基礎からのマスター大学入試漢字TOP2000(いいずな書店)							

学 習 目 標		実社会に必要な国語の知識や技能を身に付け、論理的・批判的に考える力を伸ばす。 他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを深める。
観 点 別 評 価	知 識 ・ 技 能	論理的な文章における語彙の量を増やす。 文章の効果的な組み立てや接続の仕方について理解している。
	思考・判断・表現	論理的に文章を読み、文章や資料等の情報の正誤や適否を吟味しつつ考えることができる。 批判的に考える力を養い、他者と伝え合うための読解力・文章力を伸ばすようにする。
	主体的に学習に取り組む態度	自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて粘り強く取り組み、論理に基づき判断しようとしたり、評価(自己評価)・改善しようとしているかを学習活動中の取り組みや課題等で評価する。
留 意 事 項		単元別の小テストや課題等の実施時期については、進度の状況をみて教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	①世界・地域 2100年の世界地図(峯陽一) 「流域地図」の作り方ー川から地球を考えるー(岸由二)	- 世界や身近な地域が直面する課題を知り、情報を整理する。 - 情報を整理する活動を通して、進んで題材を決め、学習課題に沿って論述するなかで、自らの学習を調整する力を養う。	準備課題提出 確認テスト
	5	単元の言語活動 書くこと1 自分の主張を立てよう ②社会行動 「家族の幸せ」の経済学(山口慎太郎) 単元の言語活動 読むこと1 構成を把握しよう	- 学習した文章について、自分の主張をまとめる。 - 社会において人は何に基づいて行動しているのかを知る。 - 文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深める。	中間考査
	6	③日本文化 「間」の間隔(高階秀爾) 日本文化の雑種性(加藤週一)	日本の文化について学び、世界の他文化との違いについて考察することによって、ものの見方の視野を広げる契機とする。	
	7	単元の言語活動 書くこと2 さまざまな立場を想定して論を展開させよう	仮説を立てたうえで、反論を想定し、読み手を説得できるように工夫して意見文を書く。また、立場の異なる読み手を説得するために、批判的に読まれることを想定して、効果的な文章の構成や論理の展開を工夫する。	期末考査 課題学習
第 2 学 期	9	④哲学・認知 学びとは何かー〈探究人〉になるために(今井むつみ) 単元の言語活動 読むこと2 根拠を検討しよう	- 人はどのように見て、どのように考えているかを知る。 - 筆者の主張と関連する根拠・例示を見つけ、そのふさわしさを検討する。	夏季課題提出 確認テスト
	10	⑤環境・科学 なぜ科学を学ぶのか(池内了) 単元の言語活動 読むこと3 多角的に評価しよう	- 自然の中での人間のあり方について考える。 - 持続可能な社会を目指すための考えを書き、その表現や構成の説得力について多角的に評価する。 - 主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性を吟味して内容を解釈する力を養う。	中間考査
	11	⑥技術・規範 いのちのかたち(西谷修) AIと憲法的価値(小塚荘一郎)	- 技術の発展によって何が起こるのか考える。 「AIと憲法的価値」について考え、筆者の主張が的確に伝わるようにまとめる。	
	12	単元の言語活動 書くこと3 総合的に推敲しよう	科学技術について資料を集め整理し、それをもとに文章を書く。文章全体の論理の明晰さを確かめ、相互に推敲する。	期末考査 課題学習
第 3 学 期	1	⑦芸術 水墨画入門(島尾新) 白(原研哉) ※ 二教材の読み比べ	- 芸術的感性について述べられた文章を読み、言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることへの理解を深める。 - 芸術について述べた異なる文章を読み比べ、内容の解釈を深める。	冬季課題提出 確認テスト

3 学 期		単元の言語活動 読むこと4 比較読みをしよう	・文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深める。 ・主張とその前提や反証など情報と情報の関係について理解を深める。	
	2	⑧経済・資本 熱帯の贈与論(奥野克己)		
	3	単元の言語活動 読むこと5 文章の内容と自分の考えを戦わせよう	・貨幣の捉え方についての文章を読み、多様な論点をふまえ、その内容を批評する活動を行う。	学年末考査 課題学習

教科名	国語		科目名	論理国語			必修		
科別	普通	科学年	2年	コース名	α・選抜・進学		コース	2単位	理系
教科書（発行所）		精選論理国語(明治書院)							
副教材（発行所）		現代文読解標準ドリル(駿台文庫)、天声人語書き写しノート 学習用(朝日新聞出版)、四訂版3ランク方式 基礎からのマスター大学入試漢字TOP2000(いっずな書店)							

学 習 目 標		実社会に必要な国語の知識や技能を身に付け、論理的・批判的に考える力を伸ばす。他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを深める。
観 点 別 評 価	知 識 ・ 技 能	論理的な文章における語彙の量を増やす。 文章の効果的な組み立てや接続の仕方について理解している。
	思考・判断・表現	論理的に文章を読み、文章や資料等の情報の正誤や適否を吟味しつつ考えることができる。 批判的に考える力を養い、他者と伝え合うための読解力・文章力を伸ばすようにする。
	主体的に学習に取り組む態度	自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて粘り強く取り組み、論理に基づき判断しようとしたり、評価(自己評価)・改善しようとしているかを学習活動中の取り組みや課題等で評価する。
留 意 事 項		単元別の小テストや課題等の実施時期については、進度の状況をみて教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第1学期	4	①世界・地域 2100年の世界地図(峯陽一) ※単元の言語活動 書くこと1 自分の主張を立てよう	世界や身近な地域が直面する課題を知り、情報を整理する。引用されているグラフ等を、理系としての視点をもって解釈する。 ※学習した内容について、自分の意見をまとめる。	準備課題提出 確認テスト
	5	②社会行動 「家族の幸せ」の経済学(山口慎太郎) ※単元の言語活動 読むこと1 構成を把握しよう	社会において、人は何に基づいて行動し生活しているのかについて考察する。 ※三部構成を参考に、文章の要点や構成を学ぶ。	中間考査
	6	③日本文化 日本文化の雑種性(加藤週一)	日本の文化について学び、世界の他文化との違いについて考察することによって、ものの見方の視野を広げる契機とする。	
	7	※書くこと2 さまざまな立場を想定して論を展開させよう	※自分の意見を述べる際、予想される反論を想定し、相手を説得できる文章を書く練習をする。	期末考査 課題学習
第2学期	9	④哲学・認知 学びとは何か―(探究人)になるために(今井むつみ) ※単元の言語活動 読むこと2 根拠を検討しよう	人間にとって物事を探求していくことの意義について考察し、理系としての論理的思考力を強化する。 ※自分の主張において、明確な根拠のある文章を書く練習をする。	夏季課題提出 確認テスト
	10	⑤環境・科学 なぜ科学を学ぶのか(池内了) ※単元の言語活動 読むこと3 多角的に評価しよう	現代において科学を学ぶ意義について考察し、理系科目を履修する意識を高める。 ※ものの見方を一つの視点からだけではなく、様々な角度から見ることによって膨らみのある文章を書く練習をする。	中間考査
	11	⑥技術・規範 いのちのかたち(西谷修)	科学におけるいのちと、日常的におけるいのちの違いを読解することによって、改めていのちについての考察を深める。	
	12	※単元の言語活動 書くこと3 総合的に推敲しよう	自分の書いた文章が、本当に相手を納得させることのできる内容になっているかを検討する。	期末考査 課題学習
第3学期	1	⑦芸術 白(原研哉) ※ 二教材の読み比べ	二つの異なる文章を読み、比較検討する練習をする。	冬季課題提出 確認テスト

3 学 期	2	※単元の言語活動 読むこと4 比較読みをしよう ⑨経済・資本 熱帯の贈与論(奥野克己)	※1月に学んだ単元をもとに、複数の文章を読み比べ、考察力を高める。 資本主義社会に生きる我々に対して、筆者が提起していることを読み取り、考察を深める。	
	3	※単元の言語活動 読むこと5 文章の内容と自分の考えを戦わせよう	※複数の文章を読み、さらに自分の意見と比較することで、より豊かな発 送へとつながる契機とする。	学年末考査 課題学習

教科名	国語		科目名	文学国語		必修		
科別	普通	科学年	2年	コース名	α・選抜・進学	コース	3単位	文系
教科書（発行所）	精選文学国語(明治書院)							
副教材（発行所）	四訂版3ランク方式 基礎からのマスター大学入試漢字TOP2000(いっずな書店)							

学 習 目 標		文学作品を読むことを通して深く共感・想像する力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者と伝え合う力を高める。
観 点 別 評 価	知 識 ・ 技 能	言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 情景の豊かさや心情の機微を表す語句を知り、語彙を豊かにしている。 教科書の文章の種類や特徴について理解を深め、文体や表現技法を体系的に理解し使っている。
	思考・判断・表現	文学的文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について理解している。 言語文化の特質について理解を深め、ものの見方や感じ方、考え方を豊かにしている。 書くこと・読むことを通して言語文化の特質について理解を深めている。
	主体的に学習に取り組む態度	自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて粘り強く取り組み、論理に基づき判断しようとしたり、評価(自己評価)・改善しようとしているかを学習活動中の取り組みや課題等で評価する。
留 意 事 項		単元別的小テストや課題等の実施時期については、進捗の状況をみて教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	① 小説入門 言葉によって(大江健三郎) 山月記(中島敦)	「言葉によって」できることは何か、筆者の考えをもとにまとめる。 典拠である中国唐代の小説『人虎伝』の書き下しや現代語訳と比較し、李徴の性格や虎になった理由を読み取る。	準備課題提出 確認テスト
	5	② 詩歌入門 秋の折(高村光太郎) 雪(三好達治) 汚れつつまつた悲しみに……(中原中也)	さまざまな詩に触れ、その歴史性や特徴、独特の効果を学ぶ。 詩的表現が持っている力や可能性について考える。 詩句の反復による効果を理解する。	中間考査
	6	③ 文学の境界を広げる 地球から来た男(星新一) マンガは哲学する(永井均)	心理描写やリアリズム以外のさまざまな表現形式をもつ小説への理解を深め、多様な読みを発見する。 自分なりに哲学を定義する。	
	7	文学の窓 映画の中の花(西川美和) 単元の言語活動 さまざまなメディアに生息する (文学)を発見する	文学にはどのようなジャンルがあるか、特性や特徴を考える。 メディア化された文学作品を取り上げ、元の作品とメディア化とを比較する。	期末考査 課題学習
第 2 学 期	9	④ 言葉の力 こころ(夏目漱石) 文学の窓 群れず集まる(田中和将)	近代文学の代表的な作品を通して、言葉の芸術としての小説の力を学ぶ。 抑制された筆致で綴られた文章の心情を読み取る。	夏季課題提出 確認テスト
	10	⑤ 伝統と革新 短歌の輪郭(小池光)	本歌取りや歌枕といった技法を学ぶとともに、たった31音の小さな詩の形が秘める表現力について読み味わう。	中間考査
	11	短歌十二首 文学の窓 『桐の花』の言葉(俵万智)	近現代の短歌を鑑賞する。 特徴的な表現技法を理解し、語感を磨く。 俵万智の文章を参考に、特に心に残った短歌を一首選び、200字程度の鑑賞文を書く。	
	12	俳句十二首 単元の言語活動 俳句を詠んでみる	近現代の俳句を鑑賞し、自分が読み取った句の情景を短い文章にまとめる。 特徴的な表現技法を理解し、語感を磨く。 俳句の実作と相互批評に取り組む。	期末考査 課題学習
第 3 学 期	1	⑥ 戦争と記憶 野火(大岡昇平)	戦争をめぐる文学作品を読み、戦争という事象の複雑さについて理解する。 語り手の心情の吐露を注意深く読み取り、心情変化を理解する。 一人称が物語にどのように影響するか考える。	冬季課題提出 確認テスト

3 学 期	2	転移する記憶(岡真理) 他者の記憶を語り継ぐ困難と意義に触れる。 問題提起とその具体例を理解する。 表象不可能な〈出来事〉として考えられることを、近年のニュース等から調べる。	
	3	単元の言語活動 戦争という〈出来事〉を伝える 戦争という〈出来事〉を考え伝えていく際に有効な方法を実践する。	学年末考査 課題学習

教科名	国語		科目名	古典探究			必修		
科別	普通	科学年	2年	コース名	α・選抜・進学		コース	3単位	文系
教科書（発行所）	精選古典探究古文編(明治書院)、精選古典探究漢文編(明治書院)								
副教材（発行所）	読んで見て覚える重要古文単語315 三訂版(桐原書店)、基礎から学ぶ解析古典文法 三訂版・基礎から学ぶ解析古典文法 三訂版演習ノート(桐原書店)								

学 習 目 標		日本文化の特質や、中国など諸外国の文化との関係について理解を深め、言葉がもつ文化の継承・発展・創造に寄与する働きを学ぶ。
観 点 別 評 価 価	知 識 ・ 技 能	古典に用いられる語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。
	思考・判断・表現	古典の文章に表れているものの見方・感じ方・考え方をふまえ、自分の考えを広げたり深めたりしている。 古典特有の表現に注意して内容を的確に捉え、作品の価値について考察している。
	主体的に学習に取り組む態度	自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて粘り強く取り組み、論理に基づき判断しようとしたり、評価(自己評価)・改善しようとしているかを学習活動中の取り組みや課題等で評価する。
留 意 事 項		単元別的小テストや課題等の実施時期については、進捗の状況をみて教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学期	4	【古文編】 ◇説話 沙石集「兼盛と忠見」 単元の言語活動 歌合わせの判者になってみる	・説話の面白さに親しみ、平安期の人々の生き方や考え方を学ぶ。 ・動詞・助動詞の意味や用法を理解する。 ・歌合わせの判者になり、批評を書くことを通して表現や文法を理解する。	準備課題提出 確認テスト
	5	【漢文編】 ◇故事成語「漱石枕流」「不死之薬」 【古文編】 ◇随筆 徒然草「これも仁和寺の法師」	・漢文訓読の決まりを理解する。故事・寓話の面白さを味わう。 ・文章の内容を構成や展開に即して的確に捉える。 ・人々がなぜ無常観という思想を持つようになったのか、時代背景を理解する。	中間考査
	6	【漢文編】◇史話・史伝 十八史略「背水之陣」 【古文編】 ◇物語 伊勢物語「初冠」/『伊勢物語』のパロディーを読む	・句形や漢字の意味・用法を理解する。歴史書の面白さを読み味わう。 ・和歌の表現上の特色を理解し、ものの見方や感じ方を豊かにする。 ・パロディーを読み、古典の受け継がれ方や受け入れられ方を学ぶ。	
	7	【古文編】 ◇物語 平家物語「壇の浦」 (建礼門院右京大夫集「この世の外に」)	・「壇の浦」を朗読し、平家物語の表現の特徴を味わう。 ・軍記物特有の語彙や語法を理解する。 ・『平家物語』と『建礼門院右京大夫集』をあわせて読み、戦乱の世に生きる人々の生きざまや心情を読み取る。	期末考査 課題学習
第 2 学期	9	【古文編】 ◇随筆 枕草子「うつくしきもの」 単元の言語活動 「美」の表現の移り変わりを調べる 【漢文編】 ◇近体詩 香炉峰	・作者である清少納言独特の感性を味わう。 ・「美」を表す言葉の移り変わりを調べ、古語と現代語の違いについて考える。 ・漢詩の響きやリズム、修辞などの表現の特色を理解する。	夏季課題提出 確認テスト
	10	【古文編】 ◇物語 源氏物語「光源氏誕生」「小柴垣のもと」 古文に関する評論「源氏物語を読む」	・出来事の展開や人物の心情を捉え、表現の特色を読み味わう。 ・敬語法を理解する。	中間考査
	11	【漢文編】 ◇史話・史伝 史記「鴻門之会」「四面楚歌」	・漢文句形や漢字の意味・用法を理解する。 ・登場人物の言動や行動から心情・考え方や生き方を読み取る。	
	12	単元の言語活動 『史記』の登場人物の心情と場面を想像して群読する	・『史記』の読解をふまえて登場人物の心情と場面を想像して群読する。 ・漢文の読みやリズムを身に付ける。	期末考査 課題学習
第 3 学期	1	【古文編】 ◇物語 大鏡「南院の競射」	・歴史物語を読み、史実とは異なる豊かな物語性や生き生きとした人物像を読み取る。 ・敬語における敬意の方向を確認する。	冬季課題提出 確認テスト

3 学 期	2	【古文編】 ◇詩歌 和歌・歌論「古今和歌集 仮名序」 ◇近世の文学 鹿の子餅	・和歌の修辞や表現の面白さを理解し味わう。 ・近世の咄本を読み、物語の展開の面白さを味わう。 ・商人や奉公人について知り、作品の読みを深める。	
	3	【漢文編】 漢文の名句・名言 単元の言語活動「漢文の名句・名言について随筆を書く」	・漢文の名句・名言を読むことを通して、自分の考えを広げたり深めたりする。	学年末考査 課題学習

教科名	地 理 歴 史		科目名	日 本 史 探 究		必修選択				
科 別	普 通 科		科 学 年	2 年	コース名	α・選抜・進学	コース	4	単位	文 系
教 科 書（発行所）		詳説日本史(山川出版社)								
副 教 材（発行所）		図説 日本史通覧(帝国書院)・日本史重要語句Check List(啓隆社)								

学 習 目 標		歴史総合での学習を踏まえ,社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ, 課題を追究したり解決したりする活動を通して, 広い視野に立ち, グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。
観 点 別 評 価	知 識・技 能	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について, 地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているとともに, 諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。
	思考・判断・表現	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを, 時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して, 概念などを活用して多面的・多角的に考察したり, 歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり, 考察、構想したことを効果的に説明したり, それらをもとに議論したりする力を養う。
	主体的に学習に取り組む態度	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について, よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに, 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
留 意 事 項		単元別の小テストや課題等の実施時期については, 進捗の状況をみて教科担当者が指示する。 観点別評価については, A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	第1章 日本文化のあけぼの 第2章 古墳とヤマト政権	1 文化の始まり 2 農耕社会の成立 【探究】古代社会と海外との交流 / 木簡から古代国家を探る 1 古墳文化の展開 2 飛鳥の朝廷	ガイダンス 確認テスト
	5	第3章 律令国家の形成	1 律令国家への道 2 平城京の時代 3 律令国家の文化 4 律令国家の変容	中間考査
	6	第4章 貴族政治の展開	1 摂関政治 2 国風文化 3 地方政治の展開と武士	
	7	第5章 院政と武士の躍進	1 院政の始まり 2 院政と平氏政権 【探究】絵画から中世社会を探る	期末考査 課題学習
第 2 学 期	9	第6章 武家政権の成立①	1 鎌倉幕府の成立 2 武士の社会 3 モンゴル襲来と幕府の衰退 4 鎌倉文化	夏季課題提出 確認テスト
	10	第7章 武家社会の成長	1 室町幕府の成立 2 幕府の衰退と庶民の台頭 3 室町文化 4 戦国大名の登場	中間考査
	11	第8章 近世の幕開け 第9章 幕藩体制の成立と展開①	1 織豊政権 2 桃山文化 【探究】生類憐れみの令からみる江戸時代の社会の変化 1 幕藩体制の成立 2 幕藩社会の構造	
	12	第9章 幕藩体制の成立と展開②	3 幕政の安定	期末考査 課題学習
第 3 学 期	1	第9章 幕藩体制の成立と展開③	4 経済の発展 5 元禄文化	冬季課題提出 確認テスト

3 学 期	2	第10章 幕藩体制の動揺①	1 幕政の改革 2 宝暦・天明期の文化 3 幕府の衰退と近代への道	
	3	第10章 幕藩体制の動揺②	4 化政文化	学年末考査 課題学習

教科名	地 理 歴 史	科目名	世 界 史 探 究	必修選択					
科 別	普 通	科 学 年	2 年	コース名	α・選抜・進学	コース	4	単位	文 系
教 科 書（発行所）	「世界史探究」実教出版								
副 教 材（発行所）	「最新世界史図説 タペストリー 二十三訂版」(帝国書院)「時代と流れで覚える！世界								

学 習 目 標		世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
観 点 別 評 価	関心・意欲・態度	世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。
	思考・判断・表現	世界の歴史から課題を見だし、文化の多様性・複合性や現代世界の特質を多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。
	資料活用 の技能	世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。
	知識・理解	世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。
留 意 事 項		ア 自然環境と人類のかかわり 自然環境と人類のかかわりについて、生業や暮らし、交通手段、資源、災害などから適切な歴史的事例を取り上げて考察させ、世界史学習における地理的視点の重要性に気付かせる。 イ 日本の歴史と世界の歴史のつながり 日本と世界の諸地域の接触・交流について、人、もの、技術、文化、宗教、生活などから適切な歴史的事例を取り上げて考察させ、日本の歴史と世界の歴史のつながりに気付かせる。 ウ 日常生活にみる世界の歴史 日常生活にみる世界の歴史について、衣食住、家族、余暇、スポーツなどから適切な事例を取り上げて、その変遷を考察させ、日常生活からも世界の歴史が捉えられることに気付かせる。

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	第1章 古代文明	1 農耕と牧畜のはじまり 2 オリエント文明 3 インダス文明 4 中国文明	準備課題提出 確認テスト
	5	第2章 東アジアと中央ユーラシア①	1 春秋・戦国時代の変動 2 中国古代帝国と東アジア 3 中央ユーラシアの国家形成	中間考査
	6	第2章 東アジアと中央ユーラシア② 第3章 南アジアと東南アジア	4 胡漢融合帝国の誕生 1 インド古典文化の形成 2 古代の東南アジアと海のシルクロード	
	7	第4章 西アジアと地中海周辺 ①	1 オリエントの統一 2 ギリシア文明 3 ヘレニズム時代	期末考査 課題学習
第 2 学 期	9	第4章 西アジアと地中海周辺 ②	4 ローマ帝国 5 西アジアの国々と諸宗教	夏季課題提出 確認テスト
	10	第5章 西アジア・地中海周辺の変動とヨーロッパの形成	1 ビザンツ帝国とギリシア正教圏 2 ラテン＝カトリック圏の形成と展開 3 イスラーム圏の成立 諸地域の交流と再編への問い	中間考査
	11	第2部 諸地域の交流と再編 第6章 イスラーム圏の拡大とヨーロッパ社会の変容 ①	1 イスラーム圏の多極化と展開	
	12	第6章 イスラーム圏の拡大とヨーロッパ社会の変容 ②	2 ラテン＝カトリック圏の拡大 キリスト教圏とイスラーム圏 ―「衝突」と「交流」 3 ラテン＝カトリック圏の動揺と秩序の変容	期末考査 課題学習

第 3 学 期	1	第7章 中央ユーラシアと諸地域の交流・再編①	1 中央ユーラシア諸民族と東アジアの変容 2 モンゴル帝国の成立	冬季課題提出 確認テスト
	2	第7章 中央ユーラシアと諸地域の交流・再編②	●13世紀の世界 ―モンゴルの衝撃と東西交流 3 東南アジア諸国の再編 4 海域世界の展開と大交易圏の成立	
	3	第7章 中央ユーラシアと諸地域の交流・再編③	ACTIVE 4 大交易圏の成立と ムスリム=ネットワーク	学年末考査 課題学習

教科名	地 歴 公 民		科目名	公 共		必修				
科 別	普 通		科 学 年	2 年	コース名	α・選抜・進学	コース	2	単位	文理共通
教 科 書（発行所）	公共(東京書籍)									
副 教 材（発行所）	公共ワークノート(東京書籍)、最新図説政経(浜島書店)									

学 習 目 標		現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念や必要となる情報を適切に調べまとめる技能を身に付ける。また、現実社会の諸課題の解決に向け、選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用し、公正に判断する力を身に付け、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養う。
観 点 別 評 価	知 識 ・ 技 能	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念や理論について理解しているとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。
	思考・判断・表現	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したり表現したりしている。
	主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の実現を視野に、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。また、粘り強い取り組みを行うなかで、自らの学習を調整しようとしている。
留 意 事 項		各学期の定期考查では、出題範囲における知識と技能の習得の状況、思考力・判断力・表現力を評価します。また現代の諸課題を探究する際のレポートを学期に1回程度課し、評価のための資料とします。授業中の学習活動の様子や発表、討論、論述などの内容も評価のための資料となります。

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	第1部「公共」のとりら 第1章 公共的な空間をつくる私たち (1)現代社会に生きる青年 (2)社会的な関係のなかで生きる人間	(1) 1 青年期と自己形成の課題 2 自己形成と社会への参画 (2) 1 個人として尊重される人間 2 社会的な存在としての人間 3 伝統・文化のなかの人間	
	5	第2章 公共的な空間における人間としての在り方 生き方 第3章 公共的な空間における基本的原理―私たちの民主的な社会	1 功利主義と幸福の原理 2 義務論と公正の原理 1 公共的な空間における協働とは 2 民主主義とは 3 立憲主義とは 4 人権保障の意義と展開	中間考查 課題提出
	6	第2部 自立した主体として社会に参画する私たち 第1章 民主政治と私たち①	1 私たちの民主政治 2 地方自治のしくみと役割 3 国会のしくみと役割 4 内閣のしくみと役割	
	7	第2部 自立した主体として社会に参画する私たち 第1章 民主政治と私たち②	5 政治参加と選挙 6 政党と利益集団 7 メディアと世論	期末考查
第 2 学 期	9	第2章 法の働きと私たち テーマ1 法や規範の意義と役割 テーマ2 市民生活と私法 テーマ3 国民の司法参加	1 法と社会規範の役割 2 法の成立と適用 1 市民生活と法 2 多様な契約 3 消費者の権利と責任 1 司法のしくみと役割 2 刑事司法と司法参加の意義	夏季課題提出
	10	第3章 経済社会で生きる私たち テーマ1 現代の経済と市場 テーマ2 市場経済における金融の働き テーマ3 財政の役割と持続可能な社会保障制度	1 私たちと経済 2 市場経済のしくみ 3 国民所得と経済成長 1 金融のしくみと働き 2 中央銀行の役割と金融環境の変化 1 財政の働き 2 財政の課題 3 社会保障の考え方 4 社会保障の課題とこれから	中間考查 課題提出
	11	第4章 私たちの職業生活 テーマ1 働くことの意義と職業選択 テーマ2 労働者の権利と雇用・労働問題	1 働くということ 2 多様な職業選択 1 労働者の権利 2 現代の雇用・労働問題	
	12	第5章 国際社会のなかで生きる私たち テーマ1 国際社会のルールとしくみ	1 国際社会の成り立ち 2 国際連合の役割	期末考查
第 3 学 期	1	テーマ2 国際社会と平和主義 テーマ3 国際平和への課題	1 日本の平和主義と冷戦 2 冷戦後の世界と日本 1 現代の紛争とその影響 2 平和な国際社会に向けて	冬季課題提出

3 学 期	2	テーマ4 グローバル化する国際経済	1 貿易のしくみ 2 国際金融のしくみと動向 3 グローバル化と今日の国際経済 4 国際経済の諸課題	
	3	第3部 持続可能な社会づくりに参画するために	1 探究のイメージをつかもう 2 探究プロセス	期末考査

教科名	数 学		科目名	数 学 II			文系必修				
科 別	普 通		科 学 年	2 年	コース名	α・選抜・進学		コース	3 単位	文 系	
教 科 書（発行所）			深進数学Ⅱ（啓林館）								
副 教 材（発行所）			GraspⅡ（啓林館）								

学 習 目 標		必修科目として、高等学校の数学をこの科目だけで終える生徒および引き続き数学を履修するする生徒の両方に配慮した学習内容を構成し、すべての生徒の数学的に考える資質・能力の基礎を培う。
観 点 別 評 価	知 識 ・ 技 能	数学用語・記号の理解、公式の理解、基本的な概念の理解、計算の技能などを各学期の定期考査、授業中の演習問題への取り組み、単元別の小テストの年間成績等で評価する。
	思考・判断・表現	身に付けた数学の知識や技能を効率よく活用して問題を解決し、さらに自分の考えを説明（表現）することができるかを定期考査の記述問題の解法や課題等で評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて粘り強く取り組み、数学的論拠に基づき判断しようとしたり、評価（自己評価）・改善しようとしているかを学習活動中の取り組みや課題等で評価する。
留 意 事 項		単元別の小テストや課題等の実施時期については、進度の状況をみて教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	第1章 式と証明・高次方程式 第1節 多項式の乗法・除法と分数式	1、3次の乗法公式と因数分解 2、二項定理【探求】パスカルの三角形の特徴 3、多項式の除法 4、分数式の計算	
	5	第2説 式と証明 第3節 高次方程式	1、恒等式 2、等式の証明 3、不等式の証明 1、複素数	中間考査
	6	第2章 図形と方程式 第1節 点と直線	2、2次方程式の解と判別式 3、2次方程式の解と係数の関係 4、剰余の定理と因数定理 5、高次方程式 1、直線上の点 2、平面上の点 3、直線の方程式 4、2直線の関係	
	7	第2節 円と直線 第3節 軌跡と領域	1、円の方程式 2、円と直線 1、軌跡 2、不等式の表す領域	期末考査 課題学習
第 2 学 期	9	第3章 三角関数 第1節 一般角の三角関数	1、一般角 2、弧度法 3、一般角の三角関数 4、三角関数の相互関係 5、三角関数のグラフ 6、三角関数を含む方程式・不等式	夏季課題提出 確認テスト
	10	第2節 三角関数の加法定理	1、三角関数の加法定理 2、2倍角・半角の公式 3、三角関数の合成	中間考査
	11	第4章 指数関数と対数関数 第1節 指数と指数関数	1、指数の拡張 2、指数関数	
	12	第2節 対数と対数関数	1、対数 2、対数関数 3、常用対数	期末考査 課題学習
第 1 学 期	1	第5章 微分と積分 第1節 微分係数と導関数 第2節 導関数の応用	1、平均変化率と微分係数 2、導関数 3、接線の方程式 1、関数の増減 2、方程式・不等式への応用	

3 学 期	2	第3節 積分	1、不定積分 2、定積分 3、面積と定積分	学年末考查 課題学習
	3			

教科名	数 学		科目名	数 学 II			理系必修		
科 別	普 通		科 学 年	2 年	コース名	α ・選抜・進学	コース	4 単位	理 系
教 科 書（発行所）	深進数学Ⅱ（啓林館）								
副 教 材（発行所）	GraspⅡ（啓林館）								

学 習 目 標		必修科目として、高等学校の数学をこの科目だけで終える生徒および引き続き数学を履修するする生徒の両方に配慮した学習内容を構成し、すべての生徒の数学的に考える資質・能力の基礎を培う。
観 点 別 評 価	知 識 ・ 技 能	数学用語・記号の理解、公式の理解、基本的な概念の理解、計算の技能などを各学期の定期考査、授業中の演習問題への取り組み、単元別の小テストの年間成績等で評価する。
	思考・判断・表現	身に付けた数学の知識や技能を効率よく活用して問題を解決し、さらに自分の考えを説明（表現）することができるかを定期考査の記述問題の解法や課題等で評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて粘り強く取り組み、数学的論拠に基づき判断しようしたり、評価（自己評価）・改善しようとしているかを学習活動中の取り組みや課題等で評価する。
留 意 事 項		単元別の小テストや課題等の実施時期については、進度の状況をみて教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第1学期	4	第1章 式と証明・高次方程式 第1節 多項式の乗法・除法と分数式	1、3次の乗法公式と因数分解 2、二項定理【探求】パスカルの三角形の特徴 3、多項式の除法 4、分数式の計算	
	5	第2説 式と証明 第3節 高次方程式	1、恒等式 2、等式の証明 3、不等式の証明 1、複素数	中間考査
	6	第2章 図形と方程式 第1節 点と直線	2、2次方程式の解と判別式 3、2次方程式の解と係数の関係 4、剰余の定理と因数定理 5、高次方程式 1、直線上の点 2、平面上の点 3、直線の方程式 4、2直線の関係	
	7	第2節 円と直線 第3節 軌跡と領域	1、円の方程式 2、円と直線 1、軌跡 2、不等式の表す領域	期末考査 課題学習
第2学期	9	第3章 三角関数 第1節 一般角の三角関数	1、一般角 2、弧度法 3、一般角の三角関数 4、三角関数の相互関係 5、三角関数のグラフ 6、三角関数を含む方程式・不等式	夏季課題提出 確認テスト
	10	第2節 三角関数の加法定理	1、三角関数の加法定理 2、2倍角・半角の公式 3、三角関数の合成	中間考査
	11	第4章 指数関数と対数関数 第1節 指数と指数関数	1、指数の拡張 2、指数関数	
	12	第2節 対数と対数関数	1、対数 2、対数関数 3、常用対数	期末考査 課題学習
第3学期	1	第5章 微分と積分 第1節 微分係数と導関数 第2節 導関数の応用	1、平均変化率と微分係数 2、導関数 3、接線の方程式 1、関数の増減 2、方程式・不等式への応用	

3 学 期	2	第3節 積分	1、不定積分 2、定積分 3、面積と定積分	学年末考查 課題学習
	3			

教科名	数 学		科目名	数 学 B			理系必修		
科 別	普 通		科 学 年	2 年	コース名	α ・選抜・進学	コース	3 単位	理 系
教 科 書（発行所）	深進数学B(啓林館)、深進数学C(啓林館)								
副 教 材（発行所）	GraspB+C(啓林館)								

学 習 目 標		必修科目として、高等学校の数学をこの科目だけで終える生徒および引き続き数学を履修するする生徒の両方に配慮した学習内容を構成し、すべての生徒の数学的に考える資質・能力の基礎を培う。
観 点 別 評 価	知 識 ・ 技 能	数学用語・記号の理解、公式の理解、基本的な概念の理解、計算の技能などを各学期の定期考査、授業中の演習問題への取り組み、単元別の小テストの年間成績等で評価する。
	思考・判断・表現	身に付けた数学の知識や技能を効率よく活用して問題を解決し、さらに自分の考えを説明(表現)することができるかを定期考査の記述問題の解法や課題等で評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて粘り強く取り組み、数学的論拠に基づき判断しようとしたり、評価(自己評価)・改善しようとしているかを学習活動中の取り組みや課題等で評価する。
留 意 事 項		単元別の小テストや課題等の実施時期については、進度の状況をもて教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	第1章 数列 第1節 等差数列・等比数列	1、数列とその項 2、等差数列 3、等比数列	
	5	第2節 いろいろな数列	1、和の記号Σ 2、累乗の和とΣの性質 3、階差数列	中間考査
	6	第3節 漸化式と数学的帰納法	4、数列の和と一般項 5、いろいろな数列の和 1、漸化式	
	7		2、数学的帰納法	期末考査 課題学習
第 2 学 期	9	第2章 統計的な推測 第1節 確率分布	1、確率変数と確率分布 2、確率変数の期待値 3、確率変数の分散・標準偏差	夏季課題提出 確認テスト
	10		4、確率変数の和と期待値 5、独立な事象と独立な確率変数 6、二項分布	中間考査
	11	第2節 正規分布	1、連側的な確率変数 2、正規分布	
	12	第3節 区間推定と仮説検定	1、母集団と標本 2、推定 3、仮説検定 4、身のまわりの問題への活用	期末考査 課題学習
第 1 学 期	1	<数学C> 第1章 ベクトル 第1節 ベクトルとその演算	1、ベクトル 2、ベクトルの和、差、実数倍	

3 学 期	2		3、ベクトルの成分 4、ベクトルの内積	学年末考査 課題学習
	3			

教科名	化 学		科目名	化 学		理系必修				
科 別	普 通		科 学 年	2 年	コース名	α ・選抜・進学	コース	4	単位	理 系
教 科 書（発行所）			化学基礎(数研出版), 化学(数研出版)							
副 教 材（発行所）			セミナー化学基礎＋化学(第一学習社), フォトサイエンス化学図録(数研出版)							

学 習 目 標		日常生活や社会との関連を図りながら物質とその変化への関心を高める。そのために、実験や観察等を通して化学的に探究する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、化学的な見方や考え方を養う。
観 点 別 評 価	知 識 ・ 技 能	知識の習得や概念を理解できているか、また実験操作の基本的な技術を習得できているか、各学期の定期考查、実験レポート、単元別の小テストの年間成績等で評価する。
	思考・判断・表現	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力等を身につけているか、定期考查の論述問題や実験レポート等で判断する。
	主体的に学習に取り組む態度	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力等を身につける過程において、粘り強く取り組んでいるか、自ら学習を改善しようとしているか、授業中の演習問題への取り組み、実験への取り組み、課題等で評価する。
留 意 事 項		単元別的小テストや実験、課題等の実施時期については、進度の状況をみて教科担当者が指示する。 観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	【化学基礎】 第2編 物質の変化 第3章 酸化還元反応	・酸化と還元 ・酸化剤と還元剤 〈実験〉酸化剤と還元剤の反応	確認テスト
	5	【化学】 第2編 物質の変化 第2章 電池と電気分解	・金属の酸化還元反応 ・電池、電気分解 〈実験〉燃料電池、ファラデーの法則	中間考查
	6	第1編 物質状態 第1章 固体の構造	・結晶とアモルファス、結晶格子 ・金属結晶、イオン結晶、分子間力と分子結晶、共有結合の結晶 〈実験〉単位格子の模型	確認テスト
	7	第2章 物質の状態変化	・気液平衡と蒸気圧 ・状態図	期末考查 課題学習
第 2 学 期	9	第3章 気体	・ボイル・シャルルの法則 ・気体の状態方程式 ・混合気体の圧力 ・実存気体 〈実験〉蒸気密度法、水上置換による分子量の測定	夏期課題提出 確認テスト
	10	第4章 溶液	・溶解とそのしくみ ・溶解度(再結晶、ヘンリーの法則) ・希薄溶液の性質(沸点上昇と凝固点降下、浸透圧) ・コロイド溶液 〈実験〉凝固点降下、コロイドの性質	中間考查
	11	第2編 物質の変化 第1章 化学反応とエネルギー	・化学反応と熱 ・ヘスの法則 ・化学反応と光 〈実験〉溶解熱・中和熱の測定(ヘスの法則)	確認テスト
	12	第3章 化学反応の速さとしきみ	・化学反応の速さ ・反応条件と反応速度 ・化学反応のしくみ 〈実験〉過酸化水素の分解速度	期末考查 課題学習
第 3 学 期	1	第4章 化学平衡	・可逆反応と化学平衡 ・平衡定数、圧平衡定数 ・平衡状態の変化 ・ルシャトリエの原理 〈実験〉平衡の移動	冬期課題提出 確認テスト

3 学 期	2	第4章 化学平衡	・電離平衡 ・塩の加水分解 ・緩衝液, 溶解度積 〈実験〉酢酸の電離定数とpH, 塩化物イオンの定量(モール法)	確認テスト
	3			期末考查 課題学習

教科名	理 科		科目名	物 理		必修選択				
科 別	普 通		科 学 年	2 年	コース名	α ・選抜・進学	コース	4	単位	理 系
教 科 書（発行所）			物理(東京書籍)							
副 教 材（発行所）			セミナー物理基礎＋物理(第一学習者)							

学 習 目 標		主体性を持ち、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物体の運動などを科学的に探究するために必要な資質・能力を養い、日常生活や社会との関連を図りながら科学的素養を養う。
観 点 別 評 価	知 識 ・ 技 能	知識の習得や概念的理解、実験操作の基本的な技術の習得ができているかを、小テスト、定期考査、実験活動を通して評価する。
	思考・判断・表現	習得した「知識・技能」を活用して問題を解決できる思考・判断・表現力を、考査、実験活動、レポート等で評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	学習活動のあらゆる場面で、粘り強く学習に取り組み、自ら適切な学びを得ようとしているかを授業、ノート、実験活動等を通して評価する。
留 意 事 項		年間5回を予定している実験レポートは考査と同じ扱いであるので、必ず提出すること。丸写し等の不正厳禁。

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	1編 さまざまな運動 1章 平面内の運動 2章 剛体のつり合い	・平面内を運動している物体の様子を表すのに必要な物理量について理解する。 ・質点と異なり、大きさや質量をもつ物体（剛体）があること、その運動の様子について理解する。	
	5	3章 運動量	・物体に加える力の大きさと時間の関係について考え、力と時間の積を力積ということを理解する。 ・運動量という物理量について理解する。	中間考査
	6	4章 円運動 5章 単振動	・等速円運動する物体にはたらく力について、運動方程式をもとに表し理解する。 ・物体が行う往復引導（振動）が身のまわりでどこに見られるか、単純な形で表すことができる振動がどのような振動か考える。	
	7	6章 万有引力	・惑星の軌道や惑星の諸定数から、惑星の運動にどのような規則性があるのか考え、ケプラーの法則について理解する。	期末考査
第 2 学 期	9	7章 気体分子の運動 1節 気体の性質 2節 気体分子の運動と状態方程式	・理想気体の状態方程式について理解する。 ・マクロな視点とミクロな視点との違いについて考える。	夏季課題提出 確認テスト
	10	3節 熱力学第1法則と気体の状態変化 4節 熱力学第2法則と熱機関	・熱力学第1法則について理解する。 ・物理基礎で学習した熱機関の熱効率をふまえて、熱力学第2法則について理解する。	中間考査
	11	2編 波 1章 波の伝わり方	・波のようすを伝えるためにはどのように表せばよいか考える。 ・正弦波の表し方について理解する。	
	12	2章 音	・物理基礎で学習した音の反射に加え、音の屈折・回折・干渉について理解する。 ・ドップラー効果とはどのような現象か理解する。	期末考査
第 3 学 期	1	3章 光 1節 光の伝わり方	・光の速さについて、歴史的な背景とともに理解する。 ・光の反射と屈折について、反射の法則や屈折の法則が成り立つことを理解する。	冬季課題提出 確認テスト

3 学 期	2	2節 光の回折と干渉	• 光も波の性質である回折が見られることを理解する。 • ヤングの実験とはどのような実験か知り、光が干渉するときの強め合う条件や弱め合う条件について理解する。	学年末考査
	3	3節 レンズと鏡	• レンズには凸レンズや凹レンズがあることを知り、光(光線)が入射したときの光の進み方について理解する。 • 平面鏡や球面鏡での光の進み方について理解する。	

教科名	理科	科目名	生物	選択					
科別	普通	科 学 年	2 年	コース名	選 抜	コース	4	単位	理系選択
教科書（発行所）		高等学校 生物(啓林館)							
副教材（発行所）		新課程版 セミナー生物基礎＋生物(第一学習社)							

学 習 目 標		生物や生命現象についての観察,実験や課題研究などを行い,自然に対する興味, 関心や探究心を高め,生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則の理解を深め,科学的な自然観を育成する。演習を通じて,大学入試問題を解凍できる能力を育成する。
観 点 別 評 価	知 識 ・ 技 能	生物や生物現象についての理解を深め, 科学的に探究するために必要な観察, 実験などに関する技能を身に付けている。(定期考査・実験レポート)
	思考・判断・表現	自然の事物・現象の中に問題を見だし, 見通しをもって観察, 実験などを行い, 科学的に探究する力を身に付けている。(定期考査・実験レポート)
	主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に主体的に関わり, 科学的に探究しようとする態度を身に付けている。(実験レポート・授業態度)
留 意 事 項		単元別の小テストや課題, ノート提出等の実施時期については, 教科担当者が指示を行う。 実験は授業進捗の状況を見ながら各学期一回以上行うこととする。 観点別評価については, A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第1学期	4	第1章 生物の進化 第1節 生命の起源 第2節 生物界の変遷と地球環境の変化	生命の起源と生物進化の道筋について学び, 生物進化がどのようにして起こるのかを理解する。	
	5	第2章 有性生殖と遺伝的多様性 第1節 有性生殖 第2節 遺伝子の多様な組み合わせ	減数分裂による遺伝子の分配と受精により, 遺伝的に多様な組み合わせをもつ子が生じることを理解するとともに, 遺伝子の連鎖と組換えについても理解する。	
	6	第3章 進化のしくみ 第1節 突然変異と進化 第2節 進化の要因 第4章 生物の系統 第1節 生物の分類と系統	進化がどのように裏づけられ, そのしくみがどのように説明されているかを学ぶ。生物の分類の方法, 系統を明らかにする方法, 現在明らかになっている生物の系統について学ぶ。	
	7	第4章 生物の系統 第2節 3ドメイン 第3節 細菌ドメイン 第4節 アーキアドメイン 第5節 真核生物ドメイン	生物の分類の方法, 系統を明らかにする方法, 現在明らかになっている生物の系統について学ぶ。	
第2学期	9	第5章 生命と物質 第1節 物質と細胞	細胞小器官や細胞の働きとタンパク質の働きを理解する。	
	10	第5章 生命と物質 第2節 生命現象とタンパク質	細胞小器官や細胞の働きとタンパク質の働きを理解する。	
	11	第6章 代謝 第1節 代謝とエネルギー 第2節 呼 吸	光合成によって光エネルギーを用いて有機物がつくられ, 呼吸によって有機物からエネルギーが取り出されるしくみを理解する。	
	12	第6章 代謝 第3節 光合成	光合成によって光エネルギーを用いて有機物がつくられ, 呼吸によって有機物からエネルギーが取り出されるしくみを理解する。	
第3学期	1	第7章 遺伝現象と物質 第1節 遺伝情報の複製	DNAの構造, 遺伝情報の複製・転写・翻訳のしくみ, そして遺伝子発現の調節を学ぶ。	

3 学 期	2	第7章 遺伝現象と物質 第2節 遺伝子の発現 第3節 遺伝子の発現調節	DNAの構造, 遺伝情報の複製・転写・翻訳のしくみ, そして遺伝子発現の調節を学ぶ。	
	3			

教科名	保 健 体 育		科目名	体 育		必修		
科 別	普 通	科 学 年	2 年	コース名	全	コース	2 単位	文理共通
教 科 書（発行所）		新高等保健体育(大修館)						
副 教 材（発行所）								

学 習 目 標		心と体を一体として捉え、生涯にわたって健康を保持・増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を主体的かつ共同的な学びを通して身につける。
観 点 別 評 価	知 識 ・ 技 能	知識は各種目のルール、用具の名前、安全に配慮した実施方法等の理解をしているかをICTを活用し評価する。技能は実技テストで評価する。
	思考・判断・表現	身に付けた知識や技能を効率よく活用し、自分の考えを説明(表現)することができるかを学習活動中の取り組みやICTを活用し評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて粘り強く取り組み、各自の体力に合わせた課題設定を行い、評価(自己評価)・改善しようとしているかを学習活動中の取り組みやICTを活用し評価する。
留 意 事 項		・服装は学校指定の体操着を着用する(見学者も同様)。 ・授業はチャイムと同時に開始することを原則とするので、活動場所への移動は休み時間内に完了しておく。 ・貴重品の管理をしっかりと行う。 ・体調管理は各自の責任で行い、事故・怪我が起こらないよう場所の確保、運動器具の整備に努め、安全に留意する。

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	・体づくり運動 ・陸上競技	・新体力テストに関わる技能を高め、測定する。 ・足の地面への押しや上半身のひねり戻しを使って、ハンドボールを遠くに投げることができる。 ・自分なりのペース・走り方を習得し、健康保持増進・体力向上を図ることを目標とし、20mシャトルランを行う。 ・クラウチングスタートから力強く加速し、高いスピードを維持して50m走を行う。	
	5	・球技 【ハンドボール】 A) 用具の扱い - B)ドリブル・パス・シュートなどの基本技術 - C)基本技術を用いた複合練習 - D)対人練習 - E)ルールを知る - F)ゲーム(戦術練習)	・ゴールポストやボールを正しく操作でき、基本技術を正しく身につけられる。 ・複合練習の中でより実践に近い技能を身に付けられるとともに、他者との関わり(コミュニケーション能力)や空間能力を養うことができる。 ・対人練習の中で、攻防の楽しさ・工夫を味わい、戦術を考える思考力を養うことができる。 ・ルールを知り、知識を深める。 ・ゲームを通じ、勝敗を競ったり、チームの課題を解決するなどの楽しさや喜びを味わうことができる。 ・チーム内での役割に応じた技能を発揮することができる。 ・リーグ戦の中で、審判や運営等を主体的に取り組むことができる。	
	6	・体育理論	・スポーツにおける技術と戦術・戦略 ・スポーツにおける技能と体力	
	7			
第 2 学 期	9	・種目練習	・自己観察や他者観察をし、課題を見つけて改善することができる。 ・クラスの輪を重んじ、競技力向上に努める。	
	10	・球技 【バレーボール】 A) 用具の扱い B) ボールコントロール - キャッチボール C) 基本技能 - アンダーハンドパス - オーバーハンドパス - 複合パス D) 攻撃 - スパイク - サーブ E) ルールを知る F) ゲーム(戦術練習)	・バレーボールの基本技術であるアンダーハンドパスとオーバーハンドパスの技術を身に付ける。 - また、キャッチボールを行いながら、全身のストレッチと、スパイク動作のミートも練習する。 ・ネットを張る。安全に留意し協力して準備するよう心掛ける。 <スパイク> - ステップ練習では2歩助走で練習する。ボールを頭上でキャッチ→両手首を使って逆コートに返球→片手で返球する→ミートして返球 <サーブ> - アンダーハンド・サイドハンド・フロッターサーブの順に練習する ・ソフトバレーコートを作り、4対4のゲームを行う。 ・6対6のゲームを行う ・5体力トレーニング 6運動やスポーツでの危険予知と安全確保 について理解する ・技術の上達過程と練習の考え方	
	11			
	12		・効果的な動きのメカニズム ・体力トレーニング	
第 1 学 期	1	・体づくり運動 ・体育理論	・デッドリフトの挙上重量を、高重量・低回数/低重量・高回数等の方法を用いて伸ばすことができる。 ・big3の合計挙上重量が1年次よりも増えるように自己の課題を設定し他者と協力しながら前向きに取り組むことができる。 ・運動やスポーツでの危険予知と安全確保	

3			
学	2		
期	3		

教科名	保 健 体 育		科目名	体 育		必修				
科 別	普 通		科 学 年	2 年	コース名	全	コース	2	単位	文理共通
教 科 書（発行所）		新高等保健体育(大修館)								
副 教 材（発行所）										

学 習 目 標		心と体を一体として捉え、生涯にわたって健康を保持・増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を主体的かつ共同的な学びを通して身につける。
観 点 別 評 価	知 識 ・ 技 能	知識は各種目のルール、用具の名前、安全に配慮した実施方法等の理解をしているかをICTを活用し評価する。技能は実技テストで評価する。
	思考・判断・表現	身に付けた知識や技能を効率よく活用し、自分の考えを説明(表現)することができるかを学習活動中の取り組みやICTを活用し評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて粘り強く取り組み、各自の体力に合わせた課題設定を行い、評価(自己評価)・改善しようとしているかを学習活動中の取り組みやICTを活用し評価する。
留 意 事 項		・服装は学校指定の体操着を着用する(見学者も同様)。 ・授業はチャイムと同時に開始することを原則とするので、活動場所への移動は休み時間内に完了しておく。 ・貴重品の管理をしっかりと行う。 ・体調管理は各自の責任で行い、事故・怪我が起こらないよう場所の確保、運動器具の整備に努め、安全に留意する。

学期	月	学習単元	学習内容	備考
第1学期	4	・体づくり運動 ・陸上競技	・新体力テストに関わる技能を高め、測定する。 ・足の地面への押しや上半身のひねり戻しを使って、ハンドボールを遠くに投げることができる。 ・自分なりのペース・走り方を習得し、健康保持増進・体力向上を図ることを目標とし、20mシャトルランを行う。 ・クラウチングスタートから力強く加速し、高いスピードを維持して50m走を行う。	
	5	・球技 【軟式テニス】 A) 用具の扱い B) ボールフィーリング C) ストローク(フォアハンド・バックハンド) D) サーブ・レシーブ E) ゲーム(リーグ戦)	・基本技術を習得し、ネットを介してラリーができるようになる。 ・サーブ・レシーブができるようになり、ゲームを円滑に進められるようにする。 ・パートナーと連携し、相手コートの空いている場所をめぐる攻防が展開できるようになる。 ・ルールを理解し、仲間と役割を分担しネット型の球技の攻防を楽しむことができる。 ・リーグ戦が円滑にできるよう審判や運営に主体的に取り組むことができる。	
	6	・体育理論	・スポーツにおける技術と戦術・戦略 ・スポーツにおける技能と体力	
	7			
第2学期	9	・種目練習	・自己観察や他者観察をし、課題を見つけて改善することができる。 ・クラスの輪を重んじ、競技力向上に努める。	
	10	・器械運動 【跳び箱】 A) 記録計測・フォームの実技テスト	・安全な場づくりと用具の準備・管理が正しくできる。 ・「条件を変えた技」「発展技」に挑戦し、自己や仲間の課題を発見したり改善したりしながら取り組むことができる。 ・自己が選択した技を美しいフォームで滑らかに安定させて跳び越すことができる。 ・技能の上達過程と練習の考え方	
	11	・球技 【バスケットボール】 A) 用具の扱い - B)ドリブル・パス・シュートなどの基本技術 - C)基本技術を用いた複合練習 - D)対人練習 - E)ルールを知る - F)ゲーム(戦術練習)	・ゴールリングやボールを正しく操作でき、基本技術を正しく身につけられる。 ・複合練習の中でより実践に近い技能を身に付けられるとともに、他者との関わり(コミュニケーション能力)や空間能力を養うことができる。 ・対人練習の中で、攻防の楽しさ・工夫を味わい、戦術を考える思考力を養うことができる。 ・ルールを知り、知識を深める。 ・ゲームを通じ、勝敗を競ったり、チームの課題を解決するなどの楽しさや喜びを味わうことができる。 ・チーム内での役割に応じた技能を発揮することができる。 ・リーグ戦の中で、審判や運営等を主体的に取り組むことができる。	
	12		・効果的な動きのメカニズム ・体カトレーニング	
第3学期	1	・ダンス 【リズムダンス】 【現代的なリズムのダンス】 ・体育理論	・エアロビクスの基本ステップを覚える ・基礎ステップを大きな動作で表現することができる。 ・習得した基礎ステップをつなげて踊ることができる。 ・運動やスポーツでの危険予知と安全確保	

3 学 期	2			
	3			

教科名	保 健 体 育		科目名	保 健		必修				
科 別	普 通		科 学 年	2 年	コース名	全	コース	2	単位	文理共通
教 科 書（発行所）		新高等保健体育(大修館)								
副 教 材（発行所）										

学 習 目 標		心と体を一体として捉え、生涯にわたって健康を保持・増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を主体的かつ共同的な学びを通して身につける。
観 点 別 評 価	知 識 ・ 技 能	生涯を通じた健康や体育・スポーツの基礎となる考え方を理解しているかどうかをICTを活用した小テストや、授業中のワークシートへの取り組みで評価する。
	思考・判断・表現	身に付けた保健体育の知識や技能を実践できているか、自分の考えを説明(表現)することができるかをグループワークやICTを活用して評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	自ら学習を振り返り、調整しながら問題解決に向けて粘り強く取り組み、保健体育の正しい知識に基づき判断しようとして、評価(自己評価)・改善しようとしているかを学習活動中の取り組みやICTを活用して評価する。
留 意 事 項		日頃より保健分野で扱う項目に対し興味・関心を持ち、ニュース・新聞記事等に目を向けること。

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	1単元 現代社会と健康 1 日本における健康課題の変遷 2 健康の考えと成り立ち 3 ヘルスプロモーションと健康に関わる健康づくり	- 日本における健康課題の変遷 - 日本における疾病構造の変化とその要因 - 健康に関する考え方 - 健康の成り立ちに関わる様々な要因 - ヘルスプロモーションの考え方 - 健康を守り、育てる環境	
	5	4 健康に関する意思決定・行動洗濯 5 現代における感染症の問題 6 感染症の予防 7 性感染症・エイズとその予防 8 生活習慣病の予防と回復	- 意思決定・行動選択と健康との関係 - よりよい意思決定・行動選択の方法 - 時代や地域で変化する感染症 - 現在、特に問題となっている感染症 - 感染症予防の三原則 - 現代の感染症発生予防とまん延防止のための対策 - 性感染症、エイズとは - 性感染症、エイズを予防するための対策 - 生活習慣病とは - 生活習慣病の予防と回復のための取り組み	
	6	9 身体活動・運動と健康 10 食事と健康 11 休養・睡眠と健康 12 がんの予防と回復 13 喫煙と健康	- 身体活動、運動と健康の関係 - 身体活動、運動の実践と社会環境の整備 - 食事と健康の密接な関係 - 健康的な食生活の実践と社会環境の整備 - 休養、睡眠と健康の関係 - 健康づくりのための休養・睡眠の確保 - がんの予防と治療 - がんに関する社会的な取り組み - 喫煙による健康影響 - 喫煙を開始する様々な要因と依存症	
	7	14 飲酒と健康 15 薬物乱用と健康 16 精神疾患の特徴 17 精神疾患への対応	- たばこ問題への対策 - 飲酒を開始する様々な要因と依存症 - 不適切な飲酒を防止するための対策 - 精神疾患とはどのようなものか - 主な精神疾患とその特徴 - 心の不調の早期発見とセルフケア - 自分だけで悩まず助けを求めることの大切さ - 心の健康社会の実現を目指して	
第 2 学 期	9	2単元 安全な社会生活 1 事故の現状と発生要因 2 交通事故防止の取り組み 3 安全な社会の形成	- 事故とその被害 - 交通事故防止のための取り組み - 事故の発生に関連する要因 - 交通安全を確保する行動 - 交通事故を起こした場合の責任と補償 - 安全を確保する社会の取り組み	
	10	4 応急手当の意義と救急医療体制 5 心肺蘇生法 6 日常的な応急手当 3単元 生涯を通じる健康 1 思春期と健康	- 応急手当の意義 - 救急医療体制の仕組み - 心肺蘇生法の意義 - 心肺蘇生法行い方 - 日常的なけがの応急手当 - 熱中症の予防と応急手当 - 思春期における体の変化と性機能の成熟 - 思春期における体の変化と健康課題	
	11	2 性意識の変化と性行動の選択 3 結婚生活と健康 4 妊娠・出産と健康 5 家族計画 6 加齢と健康	- 性意識の変化と異性の尊重 - 性に関する情報と性行動の選択 - 結婚、婚姻状況と健康 - 夫婦関係、親子間家と健康 - 受精、妊娠、出産 - 母子の健康のために - 家族計画の意義 - 避妊法の選択と人工妊娠中絶 - 加齢による心身の変化 - 中高年期を健やかに過ごすために	
	12	7 高齢社会に対応した取り組み 8 働くことと健康 9 労働災害の防止 10 働く人の健康づくり	- 高齢者を取り巻く状況 - 高齢者を支える社会の取り組み - 働くこと(労働)の意義と働き方の変化 - 働く人における健康問題の現状 - 日本における労働災害の推移 - 労働災害を防止するための仕組み - 職場における健康の保持、増進活動 - 日常生活における健康の保持、増進活動	
第 3 学 期	1	4単元 健康を支える環境づくり 1 大気汚染と健康 2 水質汚濁・土壌汚染と健康 3 健康被害を防ぐための環境対策 4 環境衛生に関わる活動	- 大気汚染による健康への影響 - 地球規模の大気環境問題 - 水質汚濁による健康への影響 - 土壌汚染による健康への影響 - 環境汚染の防止とその対策 - 産業廃棄物の問題と新たな環境汚染の課題 - 安全な飲み水の供給と汚水の処理 - 生活環境守るごみ処理	

3 学 期	2	5 食品の安全性と健康 6 食品の安全性を確保する取り組み 7 保健制度とその活用 8 医療制度とその活用 9 医薬品の制度とその活用	・食品の安全性と課題 ・食品の安全性を確保する行政、生産、製造者の役割 ・生涯を通じて病気から人々の健康を守る保健行政 ・健康の保持、増進のために活用できる保健サービス ・医薬品の種類と承認制度	・食品の安全性の確保 ・食品の安全性の確保と私たちの役割 ・医療制度と医療保険 ・医療機関の役割と適切な活用 ・医薬品の使い方	
		10 様々な保健活動や対策	・地球規模の健康課題を解決する取り組み ・すべての政策や取り組みに「健康」の視点を	・様々な機関・組織の活動 ・多様な人や組織が参加して進める環境づくり	
	3	11 誰もが健康に過ごせる社会に向けた環境づくり			

教科名	外国語		科目名	英語コミュニケーションⅡ			必修	
科別	普通	科学年	2年	コース名	α・選抜・進学	コース	4単位	文理共通
教科書（発行所）	MY WAY English Communication Ⅱ（三省堂）							
副教材（発行所）	Next Stage英文法・語法問題（桐原書店）／Date Base 4500（桐原書店）／Listening Trial Stage 2(文栄堂)／Reading Express Book(Z会)／総合英語Vision Quest（啓林館）							

学 習 目 標		英語を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度、英語を読んだり聞いたりして得た情報を適格に理解する能力、英語で自身の意見を的確に表現し発表する能力を総合的に培う。
観 点 別 評 価	知 識 ・ 技 能	英語の音声や語彙、表現、文法、品詞の働きなどを理解し、これらの知識を聞く・読む・話す・書くといった実際のコミュニケーションにおいて適切に活用することができるかを、小テストや定期考査等で評価する。
	思考・判断・表現	日常的な話題や社会的な話題について英語で情報や考えの概念や要点、詳細や相手の意図を的確に理解し、これらを活用して適切に表現したり伝えたりすることができるかを、小テストや定期考査等で評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	知り得た知識を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢や、円滑な言語活動に向けて見通しを立てたり、学習を振り返ったりするなど、自らの学習を自覚的に捉えている状況を、各種テスト・授業への取り組みの様子等で評価する。
留 意 事 項		単元別の小テストや課題等の実施時期については、進度の状況をみて教科担当者が指示する。（小テストにはスピーキングテストを含む）観点別評価には、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第1学期	4	Lesson 1 Dances Around the World	【Topic】世界のさまざまなダンスの起源【Grammar】SVO（O＝that/what節） / SVO(O＝if/whether節) / SVO ₁ O ₂ (O ₂ ＝if/that/what節)	
	5	Lesson 2 Katsura Sunshine—Making the World Laugh	【Topic】桂三輝さんの英語落語についての考え方【Grammar】形式主語のit / 形式目的語のit	中間考査
	6	Lesson 3 Living with Nature—Takita Asuka’s Journey	【Topic】滝田明日香さんが行う野生動物の保護活動【Grammar】現在完了形・現在完了進行形 / 過去完了形 / 過去完了進行形	
	7	Lesson 4 Sesame Street	【Topic】セサミストリートに込められたメッセージ【Grammar】SVOC（V＝知覚動詞,C＝動詞の原形）/ SVOC（V＝知覚動詞,C＝過去分詞） / SVOC（V＝使役動詞have/make,C＝過去分詞） / help＋O＋動詞の原形	期末考査
第2学期	9	Lesson 5 From Landmines to Herbs	【Topic】篠田ちひろさんのカンボジアでの活動【Grammar】関係代名詞（主格） / 前置詞＋関係代名詞 / 関係代名詞の非制限用法 / 関係副詞の非制限用法	夏季課題提出
	10	Lesson 6 Murals—The Power of Public Art	【Topic】世界中の壁画プロジェクト【Grammar】助動詞 / 助動詞の過去形を使った表現 / 助動詞＋have＋過去分詞 / 完了不定詞	中間考査
	11	Lesson 7 "Englishes" in the World	【Topic】世界のさまざまな英語【Grammar】分詞構文 / 受け身の分詞構文 / 付帯状況with	
	12	Lesson 8 Deepika kurup—The Science Behind Clean Water	【Topic】世界の水問題とその解決のための取り組み【Grammar】仮定法過去 / 仮定法過去完了 / itを使わない仮定法 / no matter＋疑問詞	期末考査
第3学期	1	Lesson 9 The World's Poorest President	【Topic】ホセ・ムヒカさんの幸せに対する考え方【Grammar】同格を表すthat節 / 強調構文 / 倒置 / 省略	冬季課題提出

3 学 期	2	Lesson 10 Living in an E-Society—The pros and Cons	【Topic】eスポーツや電子書籍の長所と短所	
	3			期末考査

教科名

外国語

科目名

英語演習

必修

科別

普通

科学年

2

年

コース名

α・選抜・進学

コース

2

単位

文理共通

教科書（発行所）

新解説 英文法[完全]演習 Power Frame 850[New Edition](桐原書店)

副教材（発行所）

Next Stage英文法・語法問題（桐原書店） / Date Base 4800（桐原書店） / OVER A

学 習 目 標		情報や考えなどを場面や目的に応じて英語で書く能力を伸ばすとともに、アクティブラーニングを活用して積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につける。具体的には、ア. 読み聞きた内容について、場面や目的に応じて概要や要点が書けるようにする。イ. 読み聞きた内容について、自分の考えなどを整理して書けるようにする。ウ. 自分が伝えようとする内容を整理して、場面や目的に応じて、読み手が理解できるように書けるようにする。エ. 文法を体系的に学習し、理解と定着を図る。
観 点 別 評 価	知 識 ・ 技 能	文型や文法、語彙を知識として持っているかを、小テストや定期考査等で評価する。
	思考・判断・表現	英語を読み聞きたとき、情報や相手が伝えようとすることを理解することができるか。内容について、自分の考えを整理して英語で書くことができるか。また、自分が伝えようとすることを場面や目的に応じて英語で書くことができるか。小テストや定期考査等で評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	知り得た知識を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢や、円滑な言語活動に向けて見通しを立てたり、学習を振り返ったりするなど、自らの学習を自覚的に捉えている状況を、各種テスト・授業への取り組みの様子等で評価する。
留 意 事 項		単元別の小テストや課題の実施時期については、進度の状況をみて教科担当者が指示する。観点別評価は、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	step1(時制)	文法演習	
	5	step2(態)	文法演習	1学期中間考査
	6	step3・4(助動詞/不定詞)	文法演習	
	7	step5(不定詞と動名詞)	文法演習	1学期期末考査
第 2 学 期	9	step6(分詞)	文法演習	
	10	step7(分詞)	文法演習	2学期期末考査
	11	step10(仮定法)	文法演習	
	12	step11(比較)	文法演習	2学期期末考査
第 3 学 期	1	step16(関係詞)	文法演習	

3 学 期	2	step8・12(動詞の語法・代名詞)	文法演習	学年末考查
	3			

教科名	情 報		科目名	情 報 I			必修		
科 別	普 通		科 学 年	2 年	コース名	α・選抜・進学	コース	2 単位	文理共通
教 科 書（発行所）	情報 I（日本文教出版）								
副 教 材（発行所）	ミニマニュアルシリーズ プログラミング入門VBA編(数研出版) 情報 I サブノート(日本文教出版)								

学 習 目 標		情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を養う。
観 点 別 評 価 価	知 識 ・ 技 能	効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解し、技能を身につけているとともに、情報社会と人との関わりについて理解している。
	思考・判断・表現	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。
	主体的に学習に取り組む態度	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。
留 意 事 項		各学期に1回実施する理解度確認テストや課題等の実施時期については、進度の状況をみて教科担当者が指示する。観点別評価については、A・B・Cの3段階で学年末に評価する。

学期	月	学 習 単 元	学 習 内 容	備 考
第 1 学 期	4	第1章 第1節 情報の特性 第2節 メディアの特性 第3節 問題解決の考え方 第4・5節 法的重要性と意義知的財産権/個人情報	第1節 情報の定義と特性 第2節 メディアの特性とメディア・リテラシー 第3節 1.問題の明確化 2.問題解決の流れと評価・改善 第4節 1.産業財産権 2.著作権 3.知的財産権の保護と活用 第5節 個人情報保護法と個人情報の取り扱いについて	
	5	第1章 第7・8節 情報技術の発展による生活と社会の変化 技法 第2章 第1節 メディアとコミュニケーション	第7節 ソーシャルメディアの特性と望ましい利用 第8節 1.Society 5.0の到来 2.情報社会の未来と問題解決 技法 問題解決の技法と表計算ソフトウェアによる表作成と活用 第2章 第1節 1.メディアの活用と特性 2.インターネットの発展 3.情報機器のパーソナル化とソーシャルメディア	
	6	第2章 第2節 情報のデジタル化 第3章 第1節 コンピュータのしくみ	第2章 第2節 1.コンピュータとデジタルデータ 2.文字・音・画像・動画・のデジタル化 3.データの圧縮 4.情報のデジタル化とデータ量 第3章 第1節 1.コンピュータの基本的な構成 2.ソフトウェアとOS	
	7	第3章 第1節 コンピュータのしくみ	第3章 第1節 3.CPUとメモリ 4.CPUによる演算のしくみ 5.2進法による計算	定期考査
第 2 学 期	9	第2章 第3節 情報デザイン 技法	第2節 情報デザインとその技法について 技法 Excel VBAを使ってみる 1.VBAとは 2.VBAを使う プログラムを作る 1.変数とは 2.入力されたデータの処理 3.処理の条件分岐	夏期課題提出 プログラミングは副 教材使用
	10	技法 第3章 第2節 アルゴリズムとプログラム	技法 プログラムを作る 4.処理の繰り返し 5.任意の関数を作る 第3章 第2節 1.アルゴリズム 2.アルゴリズムの基本と表現方法 3.プログラムの構成要素①②	前半は副教材使用
	11	第3章 第2節 アルゴリズムとプログラム 第3節 モデル化とシミュレーション 第4章 第1節 情報通信ネットワークのしくみ	第3章 第2節 4.データの扱い 5.アプリケーションの開発 第3章 第3節 1.モデルとは 2.モデル化とシミュレーション 3.コンピュータを利用したシミュレーション 第4章 第1節 1.コンピュータネットワーク 2.ネットワークの接続	
	12	第4章 第1節 情報通信ネットワークのしくみ 第1章 第6節 情報社会と情報セキュリティ	第4章 第1節 3.プロトコル・プロトコルとIP 4.プロトコルとデータ転送のしくみ 第1章 第6節 1.サイバー犯罪の分類 2.情報セキュリティの確保 3.不正なソフトウェア 4.様々なインターネット詐欺	定期考査
第 1 学 期	1	第4章 第1節 情報通信ネットワークのしくみ 第2節 情報システムとデータベース	第4章 第1節 5.情報セキュリティの確保と対策 6.暗号化のしくみ 7.暗号化と認証技術 第2節 1.情報システム 2.情報システムにおけるデータベース	

3 学 期	2	第4章 第2節 情報システムとデータベース 第4章 第3節 データの活用	第4章 第2節 3.データベース管理システムとデータモデル 第4章 第3節 1.データの収集と整理 2.数値データの分析 3.テキストデータの分析 4.アンケート調査によるデータの収集	定期考査
	3	第4章 第3節 データの活用	第4章 第3節 5.量的データの分析手法 6.統計的検定	